

台風22号の接近に伴う被害防止対策について

気象災害対策H29-6
平成29年10月27日
農林総合研究センター

I 被害防止対策

詳しい台風情報、解説は最終ページ

台風第22号は、27日朝6時には日本の南にあって、1時間におよそ20キロの速さで北西に進んでいます。

今後、10月30日（月）には本州に接近する進路予想となっています。

農林総合事務所においては、気象情報に十分注意し、台風の進路に応じた対策を的確に実施できるよう指導の徹底を図ってください。

〈要旨〉

- 1 大豆、大麦については、大雨に備えてほ場の排水路を事前に点検・連結し、排水対策を講じる。
- 2 成熟期を迎えている大豆は台風前にできるだけ収穫する。
- 3 大麦の播種作業は、土壌が乾くなど、ほ場条件が良くなるまで待って実施する。
- 4 野菜、花き等では、大雨に備えて圃場の排水対策に努める。また、園芸施設は、施設内に風が吹き込まないように、破損箇所は速やかに補修し、ビニールのバタつきを防ぐためにハウスバンドを締め直すなど点検・整備する。
- 5 前回の台風21号の強風により被害を受けた園芸施設等では、速やかに補修するなど被害の拡大を防ぐ。
- 6 りんごなど収穫期に入っている園芸作物では、熟度を確認し、収穫可能なものは早急に収穫、出荷する。

〈詳細〉

II 農作物の被害防止対策

1 大豆

(1) 事前対策

事前に排水溝を点検・整備しておく。

(2) 事後対策

- ①成熟期となっているほ場は台風前にできる限り収穫する。
- ②事前に畦間と排水溝との接続を点検し、ほ場内に停滞水が残らないようにするとともに、台風通過後はほ場巡回を行ない、排水状況を確認する。

- ③着色粒や腐敗粒などの品質低下が見られる場合は、品質ごとに分別して調製を行なう。

2 大麦

(1) 事前対策

- ①事前に排水溝を点検・整備しておく。
- ②播種～苗立ち期となっているほ場では、台風通過前に額縁排水溝を点検し、降雨による停滞水がほ場内に残らないようにして湿害を防止する。

(2) 事後対策

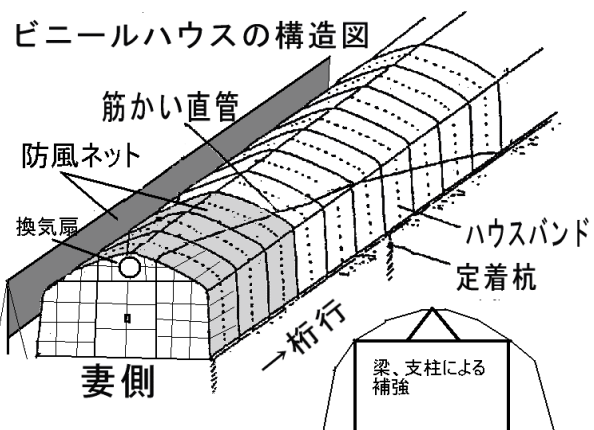
- ①台風通過後は、ほ場巡回を行ない排水状況を確認する。
- ②播種作業が遅れているほ場では、土壌が乾くなど、ほ場条件が良くなるまで待つて、可能な限り速やかに播種を実施する。

3 野菜・花き

(1) 事前対策

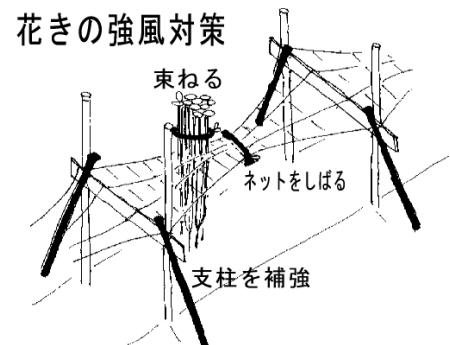
園芸施設（トマト、きゅうり、メロン、軟弱野菜、ストック等）

- ①ハウス周囲の排水溝を整備し、施設内への浸水を防ぐ。
- ②施設内に雨風が吹き込まないように、サイドのフィルムを張り、破損カ所は速やかに補修したり、ビニールのバタつきを防ぐためにハウスバンドを締め直すなど点検・整備を早急を実施する。
- ③暴風時のフィルムやパイプの浮き上がりを防ぐため、ハウス本体の直管と別に桁行直管にハウスバンドを張り、フィルムを固定する。



露地立体栽培（なす、まるいも、きく等）

- ④圃場の排水溝を点検し、大雨時の冠水に備える。
- ⑤なすなどの果菜類では、収穫可能な大きさのものは早急に収穫する。
- ⑥筋かいや直管で棚を相互に連結し、また周囲杭等と棚を固定し、棚全体を補強する。
- ⑦きくなど立体栽培の花きは、鋼管支柱を3～5m毎に打ち込み、ネットを補強する。さらに、うねの中央に数m置きに支柱を立て、支柱を中心にネットを絞り込み、茎葉を固定する。



露地地這栽培（ねぎ、ブロッコリー、だいこん、さつまいも等）

- ⑧ 圃場の排水溝を点検し、大雨時の冠水に備える。
- ⑨ ねぎはパイプ支柱を1.8m間隔に立て、2本のハウズバンドで挟み込むように連結結束し、横ゆれを防止し、葉の損傷や倒伏を抑制する。

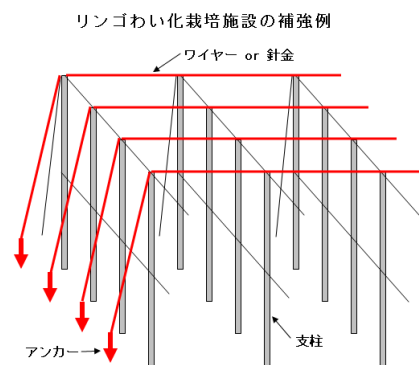
（2）事後対策

- ① 豪雨により圃場が冠水した場合は、3時間以内ではほとんど悪影響はないが、3時間を超えると高温によるむれや、根腐れによる被害が発生しやすくなるため、直ちに表面排水に努める。
- ② 砂丘畑等では強風や飛砂で茎葉が傷んだ場合は、通過後直ちに速効性肥料で追肥する。また、茎葉が風雨でもまれた場合は、病害が発生しやすいので、殺菌剤による予防を行う。
- ③ 花きでは風で茎が斜めになった場合は、台風通過後2～3時間以内にネットを起こし元に戻す。特に露地ぎくでは起こすのが遅れると茎の曲がり定着して、元に戻らなくなるので注意する。
- ④ 花木・枝物の枝折れに対しては、枝の裂け等損傷の無い部分まで切りもどす。

4 果樹

（1）事前対策

- ① 収穫期に入っているりんご、くり、かき、いちじく等は、熟度を確認し、収穫可能なものは早急に収穫、出荷する。
- ② 防風施設は支柱を点検し、ネットの破れ等は補修し架線にしっかり固定する。
- ③ りんごの普通栽培やかきでは、枝の揺れによる落果を防止するため、枝の結束や支柱立てを行う。特に、果実の多い枝は、抵抗が大きく揺れやすいので注意して行う。
- ④ りんごのわい化栽培では、支柱の上部をワイヤー等で連結し補強する。
- ⑤ 棚栽培での果実の落果のほとんどが、風圧による棚の上下動が原因であるため、必要に応じて支柱・アンカー等で棚面を補強し、揺れを抑える。
- ⑥ キウイフルーツ、いちじく等の新梢は折れやすいので、被害を軽減するため、新梢を棚面や支柱等に固定する。特に、いちじくでは、葉擦れが原因でサビ果が発生するので、新梢が揺れないようしっかりと固定する。
- ⑦ ぶどうの収穫が終了した園は、速やかにビニールをはずす。また、防鳥網、防風ネットは風で飛ばされないようしっかりと固定する。
- ⑧ 高接ぎ更新などの接ぎ木部分は風に弱いので、支柱を添えて必ず補強する。また、以前に裂けた枝、裂ける危険のある個所についても補強が必要である。
- ⑨ 大雨を伴う場合は、排水溝を設置するなど園内の排水対策を行う。
- ⑩ 事後対策のための資材等を予め準備しておく（薬剤、補修資材等）。



(2) 事後対策

- ① 台風で打ち身やすり傷を負った果実は、軟化、腐敗や落果が懸念される。収穫可能な果実は直ちに収穫し、食用、加工用、飼料用、廃棄するものに分別し、処分する。また、落下果実は直ちに園外へ持ち出す。
- ② ビニールハウス、果樹棚、支柱等の施設の被害は早急に補修する。
- ③ 倒伏樹は速やかに起こし、支柱で固定する。太根の切断が著しい場合は、その程度に応じて地上部を切りつめる。
- ④ 枝裂けは状態に応じて傷害部を削り取り、塗布剤で処理する。
- ⑤ 落葉被害を受けた場合は、被害程度に応じて摘果を行い、果実品質維持と樹体の回復を図る。
- ⑥ 強風で葉や新梢が傷ついた場合、使用基準に基づき保護と防除を兼ねて速やかに殺菌剤を散布する。
- ⑦ 長時間、雨水が滞水しないよう排水対策を講じる。

5 畜産

(1) 事前対策

- ① 畜舎内に風が吹き込まないように、窓、戸等の破損箇所は速やかに補修する。
- ② 暴風時は畜舎を密閉し、換気扇を稼働させて換気を行う。
- ③ 畜舎への雨水の進入を防ぎ、配合飼料・乾草等は、濡れて変敗しないよう、安全な場所に移動する。
- ④ 停電によって搾乳ラインやバルククーラーが止まることが予想されるので、緊急時の発電機の確保を検討しておく。

(2) 事後対策

- ① 畜舎の再点検を行い被害箇所の修理を行う。
- ② 畜舎への浸水があった場合は、排水に努め、水が引いた後、速やかに畜舎、家畜、設備器具の水洗、乾燥、消毒を実施する。特に、搾乳機器は故障箇所の点検を行い、消毒等の衛生対策を徹底する。

6 飼料作物

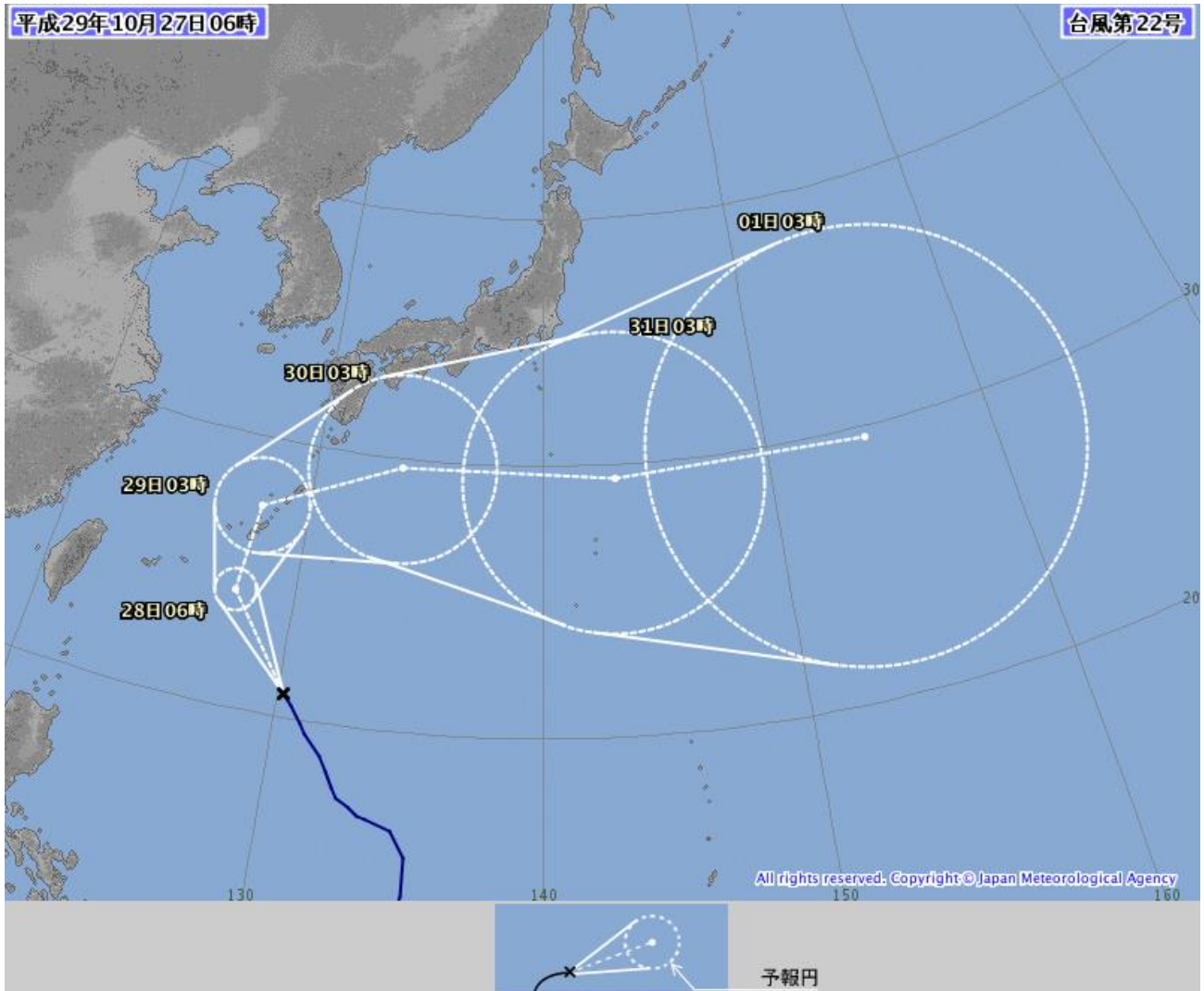
(1) 事前対策

- ① ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールは、網をかけるなど強風による破損を防止する。

(2) 事後対策

- ① ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールに破損箇所があれば、再度ラッピングするなり、テープを貼るなどサイロの気密性の確保に努める。

Ⅲ 気象の概況 台風の進路予想



〈27日6時の実況〉	
大きさ	-
強さ	-
存在地域	日本の南
中心位置	北緯 20度50分(20.8度) 東経 130度10分(130.2度)
進行方向、速さ	北西 20km/h(10kt)
中心気圧	992hPa
中心付近の最大風速	23m/s(45kt)
最大瞬間風速	35m/s(65kt)
15m/s以上の強風域	北側 440km(240NM) 南側 390km(210NM)

